

# 魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 田村利恵子  
キーワード: 書きの困難さ

所属: 戸田市立喜沢小学校

記録日: 2022年2月22日

## 【対象児の情報】

・学年

小学5年生の男児

・障害名

無し

・障害と困難の内容

読み書きの困難がうかがえる

・使用した機器

iPad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

## 【活動目的】

・当初のねらい

- (1) 漢字の形、意味、音との繋がりを捉え、読んだり書いたりする。
- (2) 自分が伝えたいことを表現することができる。
- (3) グループ学習で、自分の思いや考えが伝わった喜びを味わう。

・実施期間

2021年6月24日～2022年2月10日。

・実施者

田村利恵子(通級指導教室担当)

・実施者と対象児の関係

通級指導教室の担当教員

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

<コミュニケーション面>

自分の気持ちや考えを言葉で表現することが苦手である。保護者から、伝えたいことが分からないことがある、友達づくりのきっかけがもてないことについて相談を受ける。

<学習面>

漢字の学習では、漢字の部首や旁をまとまりとしてとらえることができると正しく書くことができる。新出漢字の練習で、辞典を使い漢字を調べるが、時間がかかる。書くことに苦手さがあるものの、児童には、学級の皆と同じように学習しなければいけないという考えがある。

<自分への思い>

今年度実施した児童のアンケートでは、「体育の授業を頑張って、将来は体操選手になりたい。」、「今、困っていることは、勉強が難しいこと。」と回答している。(5月)

○活動の具体的内容

1漢字の形、意味、音との繋がりを捉え、読んだり書いたりするために

①いろいろな漢字学習アプリに触れる。

6月から9月		<p>・「ひとコマ漢字」「小学生漢字」などで、漢字の問題に取り組む。前学年までの問題については、正解することもでき、ゲーム感覚で楽しむ。</p>	
--------	---	--	---

②漢字の成り立ちを確認する。

6月から2月		<p>・在籍学級で使っている漢字ドリルで学習状況を確認する。「筆順」を使い漢字を調べ、大きく映し出し、一画ずつなぞることで漢字のへんや旁を認識する。</p> <p>・アプリで漢字を確認してから、教師が漢字の読みを発音し児童が真似る。</p>	
--------	---	--	---

③意味や形を合わせて定着を図る。

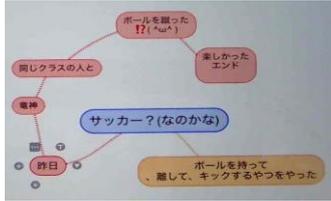
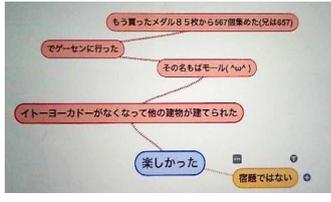
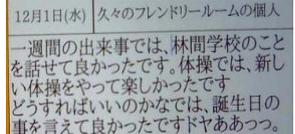
10月から2月		<p>・練習した漢字を Good Notes 5 に書き、学習の定着を図る。</p> <p>・前時に書いた漢字を見直したり、学習の蓄積を確認したりする。</p>	
---------	---	--	---

④読んだり書いたりして定着をみる。

11月から2月		<p>・練習した漢字を Flash Card に入力し、読みや書きの練習をする。</p> <p>・「消毒液」など、児童が思い出した熟語について「表に漢字、裏に読み」を入力する。画面をスライドして問題に答えていき、練習した漢字の定着をみる。</p>	
---------	---	---	---

## 2自分が伝えたいことを表現するために

- ・いろいろな表現の仕方に触れる。

<p>6月から2月</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「シンプルマインド」を使い、伝えたいことを入力する。</li> <li>(6月)</li> <li>・「楽しかった」や「面白かった」など、中央の青色部分に感想を入力し、そこから枝を伸ばして、「いつ・どこで・誰と・何をした」等を記録する。</li> <li>・赤色は、出来事の詳細、橙色は、感想に繋がる事柄、青色は、感想を記録する。(11月から)</li> <li>・記録を終えると、マップを眺め、イメージを膨らませたり、思考の整理をしたりする。</li> <li>・記録したことを話す際は、赤色の部分から話し、橙色、青色の順に発表する。</li> </ul>	 
<p>6月から2月</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「えにっき」で伝えたいことの記事化に取り組む。</li> <li>・お母さんの誕生日のお祝いやその日の学習の感想などを教師が言葉を補いながら日記に記す。</li> </ul>	

## 3グループ学習で、自分の思いや考えが伝わった喜びを味わうために

- ・友達の良い場면을写真に撮る。

<p>6月から2月</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動で、興味をもった場면을写真に撮り、スライドにまとめる。次回の授業で発表する。</li> <li>・授業の最後に、教師と写真を見ながらその日の授業を振り返る。友達の行動や言動の良さを思い出し、写真を4、5枚選ぶ。</li> </ul>	
---	--	---

### ○対象児の事後の変化

1漢字を検索し、漢字を使って表現するようになった。

- ・筆順アプリは、筆順が1画ずつ再生されるので、児童のペースに合わせて学習を進めることができた。進んで「詳細」を開き、漢字の部首や旁を確認し、筆順をなぞる様子が見られるようになった。「仏」という漢字を学習した際は、漢字を表示させ、「イ、ム。」と言って、カタカナに置き換えて覚えようとしていた。書くことに苦手さのある児童の負担軽減につながり、集中力が持続した。
- ・練習したい漢字が画面に大きく表示されることで、漢字の形が捉えやすくなった。漢字ドリルや辞典で漢字を調べた時は、何度も見本の漢字を何度も見直していたが、そのような様子が減ってきた。
- ・漢字が捉えやすくなることで、捉えた漢字の熟語を言ったり、練習した漢字を進んで漢字カードに書いたりするようになった。
- ・Good Notes 5 は、書いたり消したりが簡単にできるので、書くことの負担を減らすことができた。ノートをめくり、これまでの蓄積を振り返ると、頷いたり、笑ったりして自分の頑張りを実感していた。書いた漢字を書き直すようになり、前時に書いたものより丁寧に書こうとする様子が見られた。
- ・Flash Card は、児童が苦手と思っている漢字をアプリに入力したので、読めたり、書けたりできたときはとても喜び、学習意欲が高まった。

2伝えたいことを表現するようになった。

・「シンプルマインド」を使い、出来事を入力することで、経験したことやその時の思いが視覚化できた。入力を終わると、どの言葉を使って発表するか取舍選択したり、伝える順序を決めたりするようになった。マップを見ながら発表し、安心した様子で伝えることができるようになった。

・「えにつき」は、児童が思い出したことを手軽に入力することができた。キーボード入力が得意なので、意欲的に文章の入力をした。これまで日記を書く際は、日記用のマス目を使っていた。「えにつき」を使い始めた頃は、話題がなかなか決まらなかった。手軽に日記が書けることが分かり、進んで話題を決めて書くようになった。iPad のアプリを使うことで便利さを体験し、気軽に表現できる喜びを味わっていた。

3グループ学習で、自分の思いや考えを伝えるようになった。

・iPad を使い始めた頃は、写真を撮ることに戸惑う様子が見られた。教師が、友達が頑張っている姿を撮ってはどうかとアドバイスした。伝えることに消極的であった児童が、徐々に、友達の良さを見つけようとする姿が見られるようになった。

・撮影した写真を友達に見せ、お互いが笑顔になったり、友達と話したりするきっかけのツールとなった。

・スライドの発表を通して自分の思いを伝えることで、表現することに慣れていった。授業中に意見を言ったり、友達にアドバイスしたりするようになった。

### 【報告者の気づき・エビデンス】

・主観的気づき

#### ①漢字を書くことについて

これまで児童は、漢字を調べる際に、辞書を使うことがあった。調べたい漢字を見つけるのに、時間がかかること、また、小さく書かれた漢字の見えづらさがあった。児童が苦手な漢字をドリルから選び、筆順アプリを使い練習をした。筆順アプリは、漢字が大きく映し出されるので、漢字全体を認知しやすくなった。

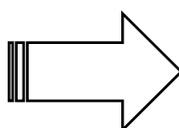


Good Notes 5 を使うことで、書く時に要する時間が短縮され、書くことを気軽にできるようになった。また、ペンの種類を選ぶことができ、様々なものを試して、書くことを楽しむ様子が見られた。「ICT を使うと便利だな。」と思うような体験をたくさんすることで、書くことの苦手さが軽減された。

#### ②自分が伝えたいことを表現することについて

シンプルマインドを使って、伝えたいことを可視化することで、話したいことを整理することができた。「1週間の出来事」を話す学習の際に、児童が思いついた言葉を入力し、マインドマップを見ながら伝えた。この学習方法を重ねるうちに、モニター越しに参観していたお母さんが「伝えたいことがよくわかったよ。」と拍手で児童を褒めてくれるようになった。伝える喜びを分かち合うことができた。

児童は、マインドマップを見ながら発表



保護者は、モニター越しに参観

えにつきを使うことで、伝えたいことがたくさん思いつくようになった。タイピングが得意なので、話題が決まると、素早く入力して書き終えた。自分の強みを生かして表現することで、思いが伝えやすくなってきた。

③グループ学習で、自分の思いや考えが伝わった喜びを味わうことについて

児童はこれまで、皆と同じようにしなければいけないという気持ちが強く、自分だけが iPad を使うことを躊躇していた。iPad の便利さを体験し、通級の学習では、進んで使う様子が見られるようになった。



・エビデンス

アプリと並行して、大きなマスに漢字を大きく丁寧に書き、漢字カードを貯めていった。大きなマスから徐々に小さなマスに漢字を正しく書く練習をした。書いた漢字のどこが良かったか具体的な言葉にして褒め、漢字を書くことに少しずつ自信をもたせた。この練習を重ねるうちに、小さなマスでも形を整えて書くことができるようになってきた。

事前に書いたもの



これまでは、ドリルや辞書で漢字を調べ、マス目や罫線に練習していた。漢字の成り立ちを捉え、形を整えて書くことが苦手であった。はねやはらいなどの細部についても同様であった。

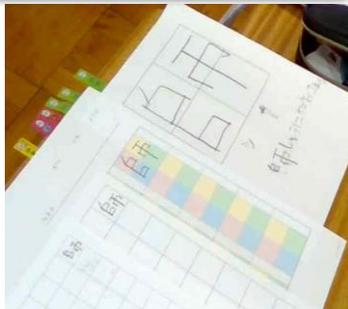
現在 「筆順アプリで漢字を調べる→漢字カードに書く→大きさの違うマス目に練習する」ことを通して



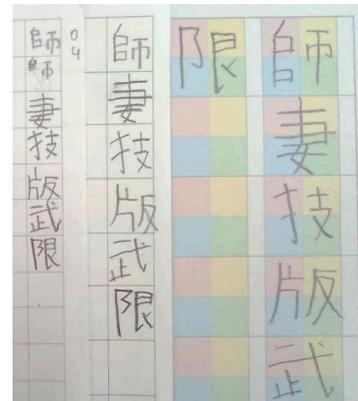
筆順アプリで漢字を大きく映し出し、形を捉えて書いた。



iPadを見ながら漢字を大きく書くことで、形を捉えたり、細かな部分を認識したりできるようになった。



漢字を正しく認知すると、徐々に小さなマスに練習しても、形が整い、漢字をマスの中に収めることができた。



漢字の成り立ちがはっきりと分かるようになると、形が整い、正しく書くことができるようになった。アプリを活用することで高い効果が得られた。

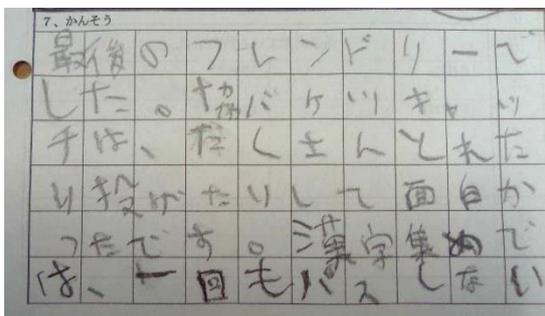
・その他のエピソード

QB プレゼンを活用し、プレゼンテーションで友達の良いところや頑張りを伝え合う機会をつくることで、躊躇することなく、仲間の前で自分の思いを伝えることができるようになった。また、スライドを見た仲間が笑顔になったり、児童を褒めたりする思いがけない効果があった。



友達の良い場面を写真に撮ることで、友達への興味が高まった。授業中は、発言をする機会が増えた。

最後のグループ学習で、「へんと旁から成る漢字」を集める活動を行った。児童の順番が回ってくると、自信をもって答えていた。これまで発言する際、消極的な様子が見られたが、生き生きとした姿に変化を感じた。最終日に毎年行っている「友達への手紙」という活動では、これまで皆の前で手紙を読むことをためらっていた。今回は、堂々と皆の前に立ち、友達への感謝を読み上げることができた。学習の最後に、下記のような感想を書いていた。



児童は、「調べたい漢字がすぐに検索できた」、「漢字の細かい部分が大きく見えたことで正しさが確認できた」、「鉛筆で漢字を書く前に画面になぞって確認できた」、「思いを可視化して伝えることができた」といった経験を味わっている。目立たないように、皆と同じようにという思いに縛られていた児童が、iPad を使い多様な手段を得ることで、自己表現や人との関りが進みつつある。これらの経験を通して、伝えたいことがたくさん出てきて、関わりたい友達が増えてきている。